

第198回通常国会、開会。

国民民主党は「新しい答え。」をつくっていきます

政治は何のためにあるのか、今は野党である私たちの責務とは何か。

やらねばならないことは2つ。

一つは、政府の政策を厳しく監視すること。

そして、政権を担う「もう一つの選択肢」をつくること。

いま、政治に求められている一番の仕事は、新たな時代の社会保障の形を示すこと。

「平成」がまもなく終わろうとしているにもかかわらず、社会保障の仕組みは「昭和の自己責任モデル」のまま。社会保障や教育サービスの水準は、主要先進国の中で最低レベルです。

子どもは、親も、生まれる国も、地域も選べません。だからこそ、生まれた境遇によって、子どもたちの夢や人生が、制限や制約を受けることのない国づくりをしなければなりません。

「生まれた日も、最期の日も、そこに安心がある国づくり」。私たちのめざす社会像です。

国民民主党は、世代や地域をこえ、さらには自然環境や外国の人々とも結びあって生きていく社会、そんな「新しい答え」をつくりだしていきます。

国民民主党に、どうか皆さんの声をお寄せください。



国民民主党代表 玉木雄一郎

国民民主党は女性候補者比率30%をめざします。

女性候補者支援



国民民主党
Democratic Party For the People



詳しくはこちら ↓



あなたの志、一緒に育てます。



写真は左から、階猛、源馬謙太郎、津村啓介、大西健介、山井和則各衆院議員、桜井充、川合孝典、磯崎哲史各参院議員

閉会中審査

課題の答えを引き出すため、 国民民主党の考えをぶつけた

通常国会開会に先立ち、衆参両院で改正入管法や厚労省による毎月勤労統計の不正調査問題をめぐって閉会中審査が開かれ、党所属議員が質問に立った。

外国人労働者の 受け入れで提案

【1月23日 衆院法務委員会】

■ 階猛議員

分野別運用方針に定められた14業種のうち、経済産業省所管の3業種で外国人労働者を受け入れるために実施する「試験」に3億円の予算が計上されていることを疑問視。「新たな在留資格による人材不足・受け入れの見込み数」に書かれている制度導入後の「技能実習生」の受け入れ見込み数は具体的な数値なのに、「試験」からの方は若干名と書かれているのはゼロも含まれると指摘。この見込みでは試験の実施は不要ではと追及した。

■ 源馬謙太郎議員

外国人労働者の受け入れを拡大したうえで問題になるのは、地域ごとに受け入れ数が偏在することだと指摘。外国人からの相談を一元的に受ける「ワンストップセンター」を在留外国人が多い都市に設置するという法務省の説明に、外国人労働者の偏在の解消と矛盾すると反論した。

■ 津村啓介議員

①国勢調査の精度を高めるための法

毎月勤労統計調査問題を 追及

【1月24日 衆院厚生労働委員会】

■ 大西健介議員

のべ2000万人の雇用保険や労災保険で500億円を超える過少給付を生じ、予算案を修正し閣議決定をやり直すという前代未聞の事態を招いた不祥事だと指摘した。特別監察委員会による政務三役への聴き取りや、調査を実施している東京都や神奈川県・愛知県、大阪府への聴き取りがなかったこと

を問題視し、徹底を求めた。

■ 山井和則議員

昨年の勤労統計で賃金上昇率は前年比3.3%増で「21年ぶりの高水準」と発表したのが、問題発覚後に2.8%に下方修正された点を問題視。前年も調査した事業所比較では1.4%増である点も着目し、どちらが実態に近いかを総務省審議官に質問し「1.4%が適切」との見解を引き出し、水増し偽装の実態を浮き彫りにした。

【1月24日 参院厚生労働委員会】

■ 川合孝典議員

特別監察委員会が取りまとめた検証結果には「組織的隠ぺいはなかった」というのみで、具体的なことが書かれていない点を指摘。第三者組織をつくり、客観的な資料を提示しなければ「信頼回復ができない」と訴えた。

■ 磯崎哲史議員

昨年、統計法改正が行われ、民間団体にもデータを出すように努力義務を課しているにもかかわらず、行政自身がいざ対応をしたことを厳しく追及。また、特別監察委員会のメンバーが厚労省内に常設の監察チームを兼務していることから独立性の担保を強く求めた。

つくろう、
新しい答え。

